

令和7年度 第4回山武市学校のあり方検討委員会

1 日 時	令和8年2月5日(木) 午後1時30分から午後2時15分まで
2 場 所	山武市役所 第5会議室
3 出席委員	10名
4 欠席委員	5名
5 会議内容	1 開 会 2 議 事 (1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（後期計画改定版）（案）に関するパブリックコメントの実施結果について (2) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（後期計画改定版）（案）について 3 その他 4 閉 会
6 事務局	教育総務課長 外

1 開会 午後 1時30分

2 あいさつ

※開会にあたり教育長よりあいさつ

教育長：本日はご多用のところ、令和7年度第4回山武市学校のあり方検討委員会に御出席いただき、感謝申し上げます。皆様には、日頃から市教育行政に対して御理解、御協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

さて、10月14日に開催した第3回学校のあり方検討委員会では、「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画」の改定に関する答申についてまとめていただき、同日付けで委員長から教育委員会に提出いただいた。

教育委員会では、皆様からの答申内容を踏まえ、基本計画の後期計画改定版（案）を作成し、市民から意見を募集するパブリックコメントを実施した。

本日の会議では、パブリックコメントの実施結果および後期計画の最終案について、皆様に報告をさせていただく。この最終案を教育委員会会議の中で最終確認し、基本計画の改定版の完成となる。

これまで皆様にご協力いただいたことに深く謝意を表し、挨拶とする。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

※委員長よりあいさつ

委員長：本日は、ご多用の中お集まりいただき感謝申し上げます。

令和7年度の委員会は、今回が最後となる。答申の作成に向けて、ご尽力いただいたことに改めて感謝申し上げます。

本日は、後期計画改定版の最終案ができたとのことであるため、事務局の説明を受け、委員会としての確認の場としたいと思う。どうぞよろしく願います。

### 3 議事

#### (1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（後期計画改定版）（案）に関するパブリックコメントの実施結果について

事務局：資料1「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（後期計画改定版）（案）に関するパブリックコメントの実施結果」により説明。

#### (2) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（後期計画改定版）（案）について

事務局：資料2「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（後期計画改定版）（案）」により説明。

委員長：ただいま事務局から、後期計画の改定について報告をいただいた。

計画（案）は、2月の教育委員会会議で決定し、後期計画改定版が策定される予定とのことである。

今後、学校の方向性について検討する段階となった場合においては、地域ごとの状況を鑑みながら、柔軟に対応していただきたいと思う。

最後に、計画の進め方に関して、資料の14ページを見ていただくと、計画の「具体的な進め方の例」の記載があるが、進め方等について委員の皆さまからご意見があれば願います。

A委員：今後の進め方において、アンケートを取って広く意見を聴取することは重要だと思う。アンケートを取るにあたっては、ある程度のベースのようなものが、きちんと提示された上で意見を聴取しないといけないと思う。

コスト的に見て、山武市ではこのパターンでは統廃合は考えられないというような理想形も入れて良いのか、それとも現実的なところのある程度の概要が分かった状態で意見を求めるのか、その整理が必要である。

もちろん、今回のパブリックコメントにもあったように、日本全国、母校が無くなることを良しとする地域はどこも無い。

ただ、少子化の中で具体的な進め方の例として、小中連携校、小中一貫校、小規模特認校等、ある程度のイメージ的なものが、山武市ではこういう風なことが、実現可能、選択可能ではないかという情報が少しあった方が、意見が具体的に出しや

すいのではないかと思う。

委員長：アンケートを山武市全体に実施する前に、山武市として最低限確保したい学校規模を下回る地域に現状と市としての考えを伝えたいので、まずはその地域の保護者からご意見を聞いた方が良いと思う。

また、これから小中学校に上がる予定の保護者を対象にアンケートを実施していただきたい。

B委員：大富小学校の保護者の中には、少人数であることで、きめ細かく見てもらえてありがたいという声もある。また、そうした点はアピールして、児童数を増やしてもよいのではないかと考える方もいる。

A委員：人口減少が続いて高齢化しているという情報だけを住民に示すと、この地域はもっと減っていくのだと、より現実的に感じてしまい、ネガティブな情報が行政から直に伝わる場面になりかねない。

それは全国で起こっていることであるが、決していい気持ちはしない。また、子どもの将来を考える中で代替案を考える世帯も出てくる。前の学校のあり方検討委員会の時も、行政からネガティブなことを突きつけられた結果、市外に転出するといった話題に変わってしまった経緯があり、それは違うだろうと思う。

その過去を踏まえると、やはりプラスの面を示すことが大事であり、学校の統廃合を通じて、ここに残る子どもたちがより良くなるための話し合いの場を設け、みんなで考える。そして、新しい地域からも来てもらえる可能性を示すような、地域の方への説明の形に持っていければよい。

しかし現実として、日本全国で人口減少と高齢化、そして社会保障をどうするかという課題が起こっている。それを改めて自分たちの身近な小学校やお孫さんのこととして考えると、「昔はそうじゃなかったのにな。」というところから始まり、やはりしんどい思いをみんながするのである。

だからこそ、そうではない明るい方向、新しい可能性として、B委員が言ったようなきめ細かな教育を選べることや、小規模校を悪い印象ではなくプラスの面として理解していただき、次にどのように学校を配置していくかという方向に持っていけることが大事であり、それを強く望みたい。

C委員：蓮沼中と松尾中が統合した際、統合が確定する前から跡地利用に関する噂が流れていた。アンケートの内容やその実施時期についてはA委員が言ったとおり、最初の進め方や提示する内容が非常に重要になると感じている。

話は変わるが、以前に話題に上がった学区の再編については、統廃合となった場合を考えると、現在の学区のままでよいと思った。

ただ、今の学区のまま統合すると、学区外の学校のほうが自宅から近くなる子ども

もが出てくる可能性があるため、現在も行われているのかもしれないが、柔軟に、学区とは異なる学校に行けたらいいなと個人的には思っている。

委員長：部活動を理由に、学区外の中学校に通学することはできるのか。

事務局：就学指定変更の条件の中には、部活動に関する要件も含まれている。また、学区外の学校の方が学校までの距離が近い場合にも、就学指定変更が認められる。

#### 4 その他

事務局：山武市学校のあり方検討委員会の委員の任期は2年間であり、今期の委嘱期間は令和8年3月31日までである。

令和8年度以降も、学校のあり方検討委員会は継続するため、可能であれば、現委員の皆さんに引き続き委員をお願いしたいと考えている。

しかしながら、団体によっては役員改選等により委員が変更となる場合もあろうかと思う。

いずれにしても、改めてお声かけさせていただきたいと考えているため、ご承知おきいただければと思う。どうぞよろしく願います。

委員長：ただいま、事務局から来年度以降の委員について説明があった。  
質問等があれば願います。

(意見する委員なし)

無いようなので、これで本日の議事をすべて終了する。

それでは、進行を事務局にお返しする。

事務局：これで本日の次第は全て終了とする。

以上をもって、令和7年度第4回山武市学校のあり方検討委員会を閉会する。

#### 5 閉会 午後2時15分